

年号：1914年

月日：1月12日

災害名：桜島噴火（桜島地震 M7.1）〔大正大噴火・桜島地震〕の概要

鹿児島県鹿児島市桜島位置図



出典：国土地理院

【桜島の成り立ち】

- ・約 29,000 年前に起きた錦江湾の超巨大噴火により、桜島は約 26,000 年前に誕生した。
- ・この活動で形成された陥没地形「始良カルデラ」に海水が流れ込み、錦江湾の湾奥部が作り出された。
- ・海底では噴火活動が繰り返され、後の桜島の活動へと続いていき、始良カルデラ内に最初に誕生したのが北岳である。以来、北岳はたびたび噴火したが、約 5,000 年前に活動を休止した。
- ・その約 500 年後、北岳に覆いかぶさるように南岳が誕生し、活発な活動を繰り返しながら現在に至る。



▲噴煙を上げる桜島南岳

【桜島の有史以降の4大噴火】

■桜島の溶岩流下範囲



出典：鹿児島市わが家の安心安全ガイドブック（平成24年3月発行）

①文明の大噴火（1471年）

- ・文明3年（1471年）桜島東側の黒神付近の北東側から溶岩を流出して、現在の大燃崎を形成した。
- ・文明7年（1475年）桜島南西側の野尻付近から溶岩を流出し、翌年の文明8年（1476年）に大爆発が起こった。文明8年の大爆発は最大規模の軽石噴火であり、膨大な軽石のため北岳の地形が一変したほどであった。
- ・多量の噴石や火山灰で多くの家屋が埋没し、人畜にも甚大な被害が発生した。
- ・この噴火で島の南西に新島ができて桜島本島と連なり、現在の燃崎が形成された。

②安永噴火（1779年）

- ・桜島の南側と北東側の山腹から噴火発生。海底噴火により多くの小島が次々と誕生した。
- ・激しい地震や津波、流れ出した溶岩によって死者は140人とも言われている。
- ・降灰は20年間も続き、農作物に大きな被害をもたらした。

③大正噴火（1914年）

- ・大正3年1月12日、西と東の両山腹から爆発が起こり、噴煙は上空8,000メートルにも達した。流出した30億トンもの溶岩により瀬戸海峡（幅300～400m、深さ70～80m）は埋没し、桜島と大隅半島が陸続きになった。
- ・約8時間後には錦江湾内でマグニチュード7.1の大地震が発生し、鹿児島市街地では家屋の倒壊や、土壁崩落等の大きな被害があった。

④昭和噴火（1946年）

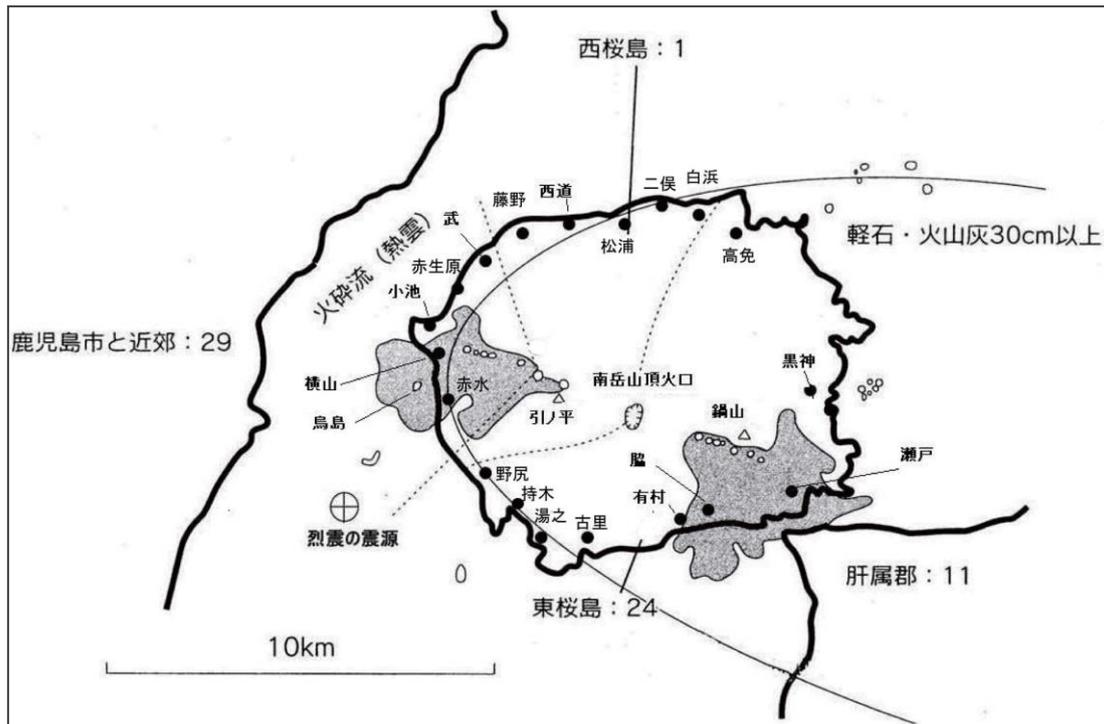
- ・1939年（昭和14年）南岳の東側中腹に新たな火口（昭和火口）が形成され、噴火を繰り返すようになった。
- ・1946年3月9日頃から溶岩を流出する大噴火に発展し、5月末まで続いた。
- ・これにより、黒神集落の大部分と有村集落の約半分が溶岩に埋没した。

【大正噴火の溶岩流で桜島は大隅半島と陸続きに】

- ・大正3年の爆発で流出した溶岩により、桜島と大隅半島が陸続きになった。
- ・大正噴火では、東西合わせて13億4千万㎡の溶岩が流出し、溶岩に覆われた面積は約22k㎡と推定されている。
- ・落下した噴石は噴火口から約4kmの範囲に広がり、西桜島村の北西側の小池・赤生原・武・藤野・西道の5集落の約700戸が焼失した。

▼桜島大正噴火による被害

(地域ごとの犠牲者数、噴火口と溶岩流の分布、烈震の震源地、1月13日夜の爆発による火砕流の範囲、●は集落)



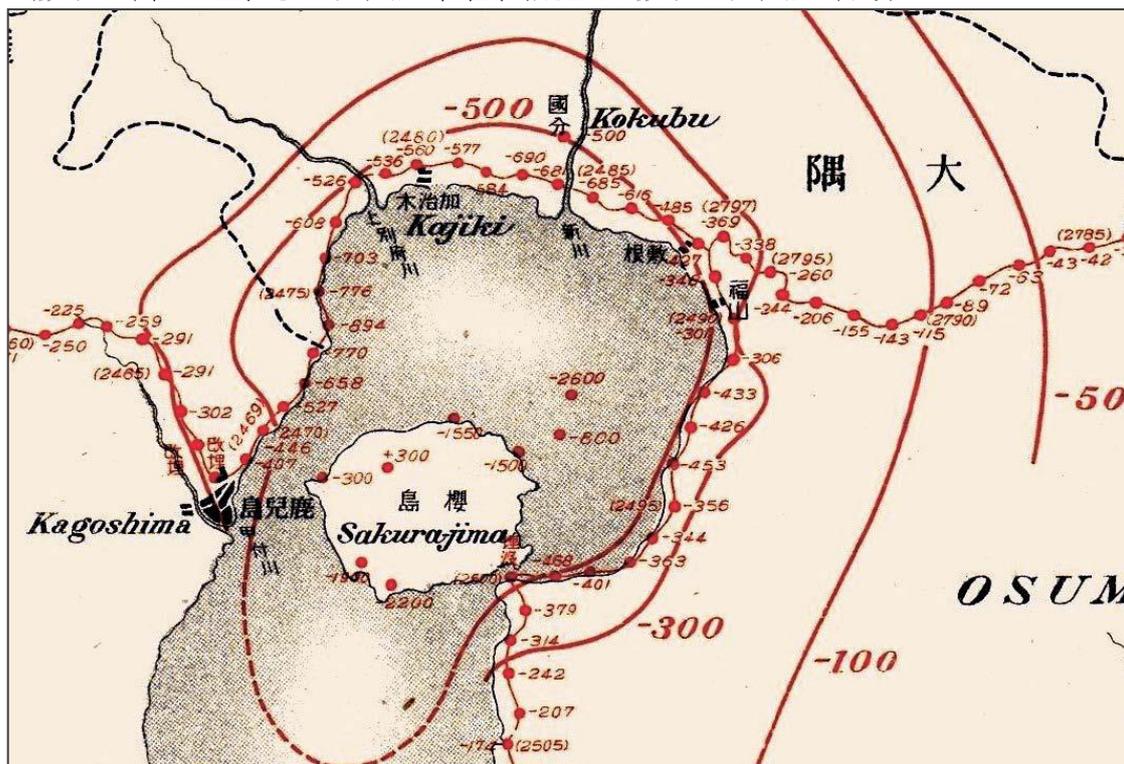
出典：「桜島大正噴火100周年記念誌」
桜島大正噴火100周年実行委員会
鹿児島県（2014年発行）

【大正噴火による南九州の地盤変動】

- ・陸軍参謀本部陸地測量部が実測した大正 3（1914）年の測量と以前の測量のデータを比較すると、桜島の北の鹿児島湾を中心に南九州の地盤が広範囲にわたり沈降していることが明らかになった。
- ・桜島付近の鹿児島港に近い水準点では 40cm、桜島の北の鹿児島湾（始良カルデラ）沿岸では 30～90cm 地盤が沈降している。
- ・三角測量の結果からは、桜島北部と南部で 1.5～2 m の沈降が生じたことが推定される。

▼桜島大正噴火による地盤の上下変動

（数字の単位は mm、●は水準点の位置、括弧内の数字は水準点の番号）



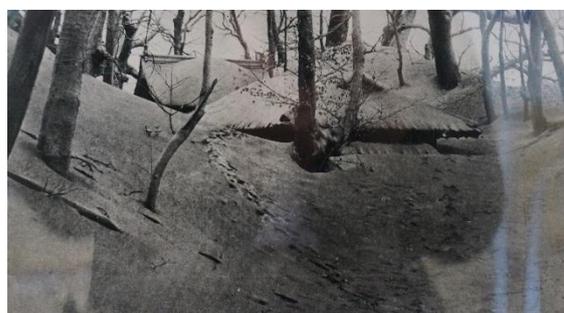
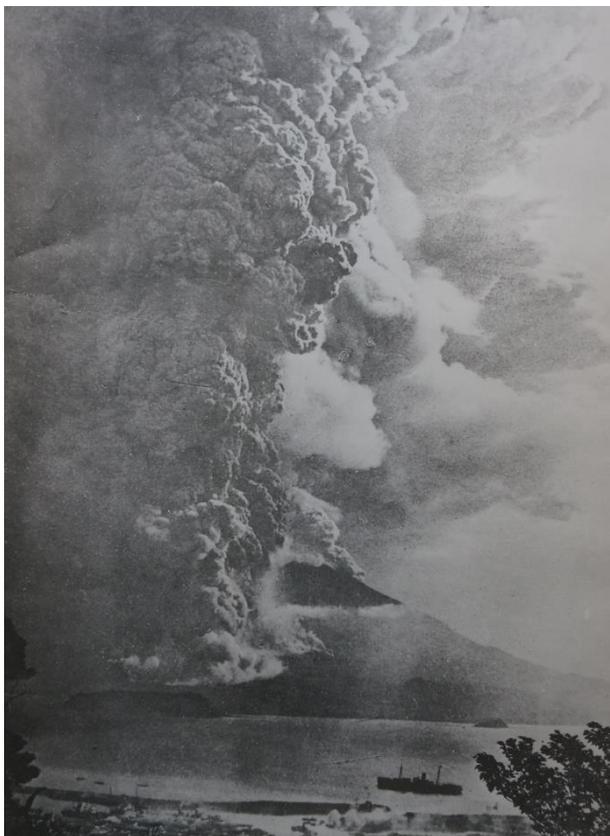
出典：「桜島大正噴火 100 周年記念誌」
桜島大正噴火 100 周年実行委員会
鹿児島県（2014 年発行）

【大正噴火の様子】



出典：「桜島大正噴火 100 周年記念誌」
桜島大正噴火 100 周年実行委員会
鹿児島県（2014 年発行）

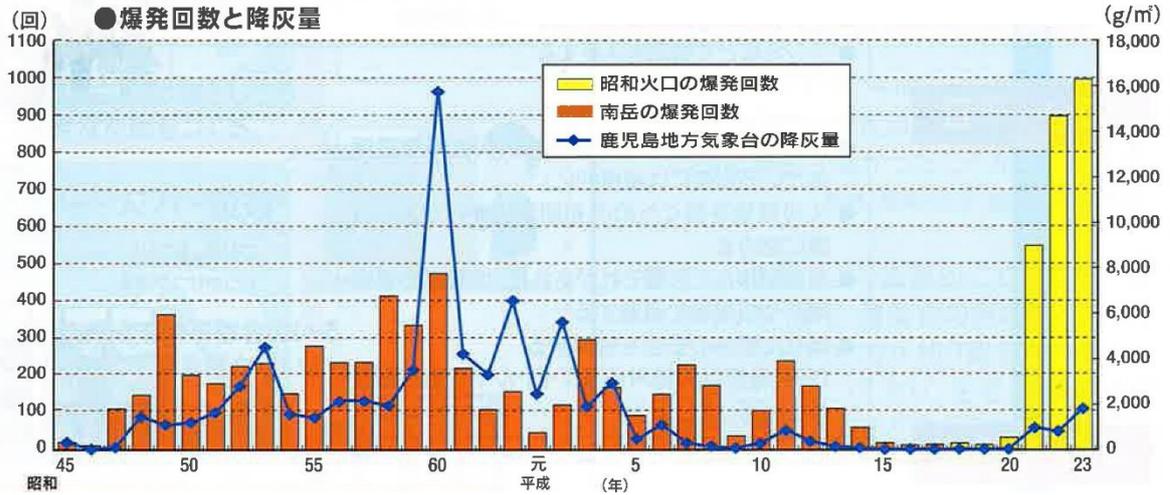
【大正噴火の様子】



出典：「桜島大正噴火 100 周年記念誌」
桜島大正噴火 100 周年実行委員会
鹿児島県（2014 年発行）

【桜島の近年の活動状況】

- ・昭和噴火以降、一度活動は収まっていたが、昭和 30 年に南岳山頂火口で火山灰の噴出を繰り返す長期的な活動が始まり、昭和 35 年、58 年、60 年には年間 400 回以上の爆発を記録した。
- ・平成 18 年に昭和火口から 58 年ぶりに噴火。その活動は年々活発化し、平成 23 年には観測史上最多の 996 回の爆発を記録している。



出典：鹿児島市わが家の安心安全ガイドブック（平成 24 年 3 月発行）

【桜島の噴火の様子】 (画像出典：鹿児島地方気象台 HP)



▲桜島：火山雷（1988 年 2 月 17 日）



▲桜島：（2000 年 10 月 7 日）
噴煙は直上後、北西に流れ市内に多量の降灰



▲桜島：昭和火口から火砕流発生（2008 年 2 月 6 日）



▲桜島：山頂火口の爆発的噴火（2009 年 10 月 3 日）
噴煙高度：火口縁上 3000m、噴石飛散 4 合目

【桜島の噴火による記念碑・遺構】

- ・桜島の噴火の記録として、鹿児島県内各地に記念碑や遺構が存在している。
- ・桜島の各集落には135年前の安永噴火（安永8年、1779年）の教訓が語りつがれており、大正噴火（大正3年、1914年）では、緊迫した事態を察知した多くの住民が避難行動を取った。
- ・このため、大正噴火は大噴火でありながらも犠牲者が少なかった。（安永噴火の犠牲者は153名に対し、大正噴火の犠牲者は58名である）
- ・今回、桜島を中心に、大正噴火の記念碑・遺構について現地調査を行った。現地調査の結果を次ページ以降に示す。



▲桜島の噴火による記念碑・遺構の現地調査位置図

① 大正噴火九十周年記念碑（レインボー桜島）



所在地

- ・鹿児島県鹿児島市桜島横山町 1722-16
国民宿舎 レインボー桜島



概要

- ・2004年(平成16年)に桜島大正噴火90周年を記念して、当時の桜島町が建立したもの



碑文

活火山桜島の歴史

～大正噴火から90年～

桜島が姿を現したのは、今からおおよそ1万3千年前と言われている。記録に残されている最初の大噴火は和銅元年(738年)であり、その後も数多くの噴火を繰り返している。

文明の大噴火 文明3年(1471年)～文明10年(1478年)

安永の大噴火 安永8年(1779年)～安永10年(1781年)

大正の大噴火 大正3年1月12日午前10時5分大轟

音と共に大爆発した。桜島から流出した約30億トンの溶岩は役場・郵便局・小学校などのあった赤水・横山部落のおおよそ1300戸お家屋を埋没させた。時を同じくして幅おおよそ400メートルもある瀬戸海峡にも鍋山から流出した溶岩が流れ込み大隅半島と陸続きになった。

その後も昭和21年・30年と大きな噴火を繰り返した活火山「桜島」は今もなお噴火活動を続けている。この碑は、大正3年の大噴火による被害に思いを馳せ、永くその記録をとどめるため、この地に建設するものである。

②月読神社



所在地

・ 鹿児島市桜島横山町 1722-8



概要

・ 桜島町武に社があったが、大正3年の噴火で社殿共に熔岩の下に埋没してしまい、昭和15年に現在の場所（横山）に移設された

③大正噴火碑



所在地

・鹿児島市桜島横山町 桜島ユースホテル付近



概要

・大正溶岩に埋まってしまった旧桜洲小学校の跡地に卒業生が建設した石碑

碑文

[中央]

大正噴火 桜洲尋常・高等小学校埋没跡 明治二十八年第(略字)一回卒業生 池田三平書

[左側の碑]

幾千の先人を薫陶育成し県下の名門校とうたわれし桜洲校大正三年この熔岩の下に埋没す
桜島は鳴動噴煙頻りなれとも往時を語らず

こゝ校跡に碑を建立す

昭和三十九年一月十二日

鹿児島県知事 寺園勝志

[右側の碑]

桜島乃開発につれて古い碑が埋もれていく

大正噴火五十年を記念し当時千八百余名の後進を擁せしわれら乃桜洲校跡の碑もそうであった
ありし日の母校を偲びこゝに再建す

昭和四十六年 晩秋

背面には寄贈者の氏名が記されている

④ 櫻島爆發記念碑（桜洲）



所在地

- ・ 鹿児島県鹿児島市桜島小池町 55
桜洲小学校通用門横



概要

- ・ 大正 3 年の噴火から 11 年経過した際に建てられた記念碑

碑文

櫻島爆發記念碑 鹿兒島郡長從七位 濱田壽一

大正三年一月十二日午前十時五分我学区内赤水ノ眞上海抜約三百八十米突ノ地點ニ當リ俄然一大爆發ヲナシ鳴轟益々熾烈ヲ加へ正に大砲彈ノ炸裂スルガ如ク初春ノ碧空ニ大石巨岩ヲ噴出シ灰煙濛々トシテ天地映冥爲ニ咫尺ヲ辨セス今ヤ南國ノ名島櫻島モ懷滅セントシ其光景轉凄慘能ク筆舌ノ盡ス所ニ非ス遂ニ我櫻洲校ヲ初メ横山赤水小池殆ト全滅シ全島被害ノ甚大ナル眞ニ言語ニ絶ス爾來春秋十一星霜島民克ク困苦缺乏ニ耐へ聖天ノ鴻恩ト内外人士ノ篤キ同情トニ浴シ奮闘是レ努メ己ニ復旧ノ曙光ヲ認ムルニ至ル此秋ニ際シ校長北原元吉並ニ有志全校區青年團員ノ熱誠ナル勞働奉仕ニ依リ茲ニ紀念ノ碑ヲ建テ以テ後世子孫ノ爲ニ之ヲ貽スト云爾

大正十四年一月十二日 鹿兒島郡視學 佐多博謹書

⑤埋没門柱



所在地

- ・鹿児島県鹿児島市黒神町
(黒神埋没鳥居より 200m 程北側に位置)



概要

- ・大正3年の桜島の大爆発で噴出した火山灰、軽石、溶岩で埋没した門柱
- ・この門柱はもともと地上2.5mの高さがあったが、わずかに上面を残すのみとなっている
- ・昭和33年 鹿児島県文化財(天然記念物)指定

⑥黒神埋没鳥居



所在地

- ・鹿児島市黒神町 647 黒神中学校横



概要

- ・腹五社神社の約 3 メートルあったと言われる鳥居は、噴火後 1 日のうちに軽石や火山灰に埋め尽くされた
- ・現在は笠木部分の約 1m を地上に見せるのみである

⑦牛根麓稻荷神社の埋没鳥居



所在地

- 鹿児島県垂水市牛根麓 牛根麓稲荷神社



概要

- ・約 3.7m あった鳥居が桜島の大正噴火で完全に軽石・火山灰によって埋没
- ・それを掘り出し、現在は高さ約 1.45m だけ出ている
- ・笠木は破壊したのではなく、元々2つの部分から出来ていたものがずれたとみられる

⑧烏島この下に



所在地

- ・鹿兒島市桜島赤水町 3629-12 烏島展望所



概要

- ・大正3年の噴火で埋没してしまった烏島（元は島だったが、溶岩により桜島と繋がった）をしのんでの石碑
- ・現在は展望所になっている

碑文

烏島この下に

HUIO FUIT INSULA KARASUGASIMA

<副碑>

烏島ハ高サ約二十メートル周囲凡ソ五百メートル玄武岩質岩石カラ成ス島デアッタ 大正三年「西暦一九一四年」一月十三日桜島西腹カラ流出シタ熔岩ハ十八日遂ニ此ノ島ヲ埋没シ終ッタ 茲ニ碑ヲ建テテ其ノ跡ヲ示ス

碑ノ建設ハ先ニ東京帝国大学名誉教授小藤文次郎並ビニ第七高等学校教授阿多実雄両故人ノ計画シタ所デアッタ 今其ノ実現ヲ見ルニ至リ由来ヲ記ス

西暦一九五一年一月十八日 東京大学教授坪井誠太郎 鹿兒島大学助教授有田忠雄

昭和廿六年一月十八日建之 西桜島村 芳湖人

⑨ 櫻島爆發記念碑（照国）



所在地

- ・鹿児島県鹿児島市城山町1-1



概要

- ・鹿児島出身の今村博士が文明・安永噴火時と同様な顕著な前兆現象があったが、その教訓が生かされなかったことを残念に思い、その草案を基に県がたてた石碑

碑文

大正三年一月十二日櫻島大ニ爆發ス之ヨリ先我邦ノ火山相次テ活動シ霧島數々噴火セリ 識者謂フ櫻島亦警ムベシト十一日曉以來地震アリ 時ヲ経テ頻々且激ヲ加ヘ又烟氣山腹ヨリ騰ルヲ見ル 衆相危フム 翌朝島内處々温泉沸キ冷泉迸ル 島民疑懼逡巡老幼マヅ避難ス 午前十時ニ至リ前後ノ山腹次デ大ニ爆發シ忽チニシテ黒烟天ニ漲リ飛石光芒ヲ曳イテ四散シ爆音地動閃電雷鳴耳ヲ聾シ目ヲ眩セシム 市民先ヲ争フテ避難ス 午後六時俄ニ激震アリ 家屋ヲ毀シ石壁ヲ倒シ断崖ヲ崩シ爲メニ圧死セルアリ 倉皇海ニ投シテ溺死セルアリ 天神ヶ瀬戸ノ崩壊ノ如キ一時二十名ヲ斃シ其數六十二名ニ及ベリ 翌十三日夜又大爆發ト共ニ大火柱天半ニ沖シ空ヲ燒キ波ヲ照ラシ赤熱ノ熔岩噴騰シテ附近ノ部落灰燼ニ帰シ全山焦土凄絶殆ド名状ス可ラズ 災異以來人心恟々流言百出毒瓦斯ノ害ヲ傳ヘ津浪ヲ呼び狼狽狂奔纒ニ身ヲ以テ逃レ難ヲ近郡田郊ノ間ニ避ケ却テ自ラ禍ヲ大ニセルアリ 光景慘ヲ極ム 是ニ於テ縣市當局部署ヲ定メ有志ト共ニ救済ニカメ灣内氣船ヲシテ難ニ赴カシメ以テ多ク事ナキヲ得此間歩兵第四十五聯隊ハ士卒ヲ配シテ市中ヲ警メ佐世保鎮守府艦隊亦來航シ以テ變ニ備フ 十六日大森理學博士臨檢シテ市ニ危険ナキヲ説キ知事亦告諭スルアリ 市ハ吏員ヲ各地ニ派シ避難者ヲ慰撫セリ 旬日ニシテ爆勢漸ク衰ヘ人心稍安シ而モ餘怒容易ニ収マラズ灰砂濛々屋ヲ埋メ田ヲ没シ大隅ノ中部不毛ノ地トナル者方十數里ニ及ビ熔岩東ハ有脇瀬戸西ハ横山桑赤水小池赤生原ノ諸村落ヲ埋メ餘勢海に入り一ハ瀬戸ノ海峡ヲ塞キ一ハ鳥島ヲ没シ遠ク海中ニ突入ス且海水ノ激増ハ沿岸ノ田園ヲ海トナシ夏秋ノ候更ニ土地ノ沈降ヲ促セリ 眞ニ桑滄ノ變モ啻ナラズト云フベシ 皇上乃チ日根野侍從ヲ遣ハサレ又罹災御救恤金壹萬五千圓ヲ賜ハル 聖恩浩大須ラク銘記スベキ也 爾來二周星噴烟漸ク鎮マリ山容依然民皆堵ニ安ンズ 今ニシテ當時ヲ想ヘバ恍トシテ夢ノ如シ之ヲ安永天明ノ噴火ニ比スルニ現象大差ナキニ似タリ サレバ専門ノ學者豫メ櫻島ノ状態ヲ講究シ有識ノ父老舊記に徴シテ變兆ニ鑑ミナバ今次ノ災異恐ラクハ豫知セラレ禍害亦幾分ノ軽減ヲ見シナラン 既往ハ追フ可ラズ來者以テ戒ムルニ足ル蓋百年ノ後又此ノ如キ爆破ナキヲ保セズ爲ニ概況ヲ記シテ不朽ニ傳フ 庶幾クハ今回罹災ノ不幸ヲ弔シ併テ後世永ク追想シ以テ未來ノ慘禍ヲ軽減スルノ資タラシメンコトヲ

大正五年十二月 鹿児島市役所

⑩ 櫻島爆發



所在地

- ・ 鹿児島県鹿児島市東谷山2丁目 桜川公園内



概要

- ・ 正面には「上福元 塩屋 耕地整理記念」と書かれ、右横に「櫻島爆發 大正三年一月十二日午前十時 石工米沢緑畝彫刻」と書かれている
- ・ 主な目的は耕地整理の記念碑だが、途中で桜島の噴火があったため、「櫻島爆發」の文字も彫り込んだものと思われる

⑪ 櫻島爆震記念碑（辻之堂）



所在地

- ・ 鹿児島県鹿児島市谷山中央1丁目
辻之堂公民館



概要

- ・ 大正4年（1915）正月、原口青年會によつて建立された



碑文

[正面]

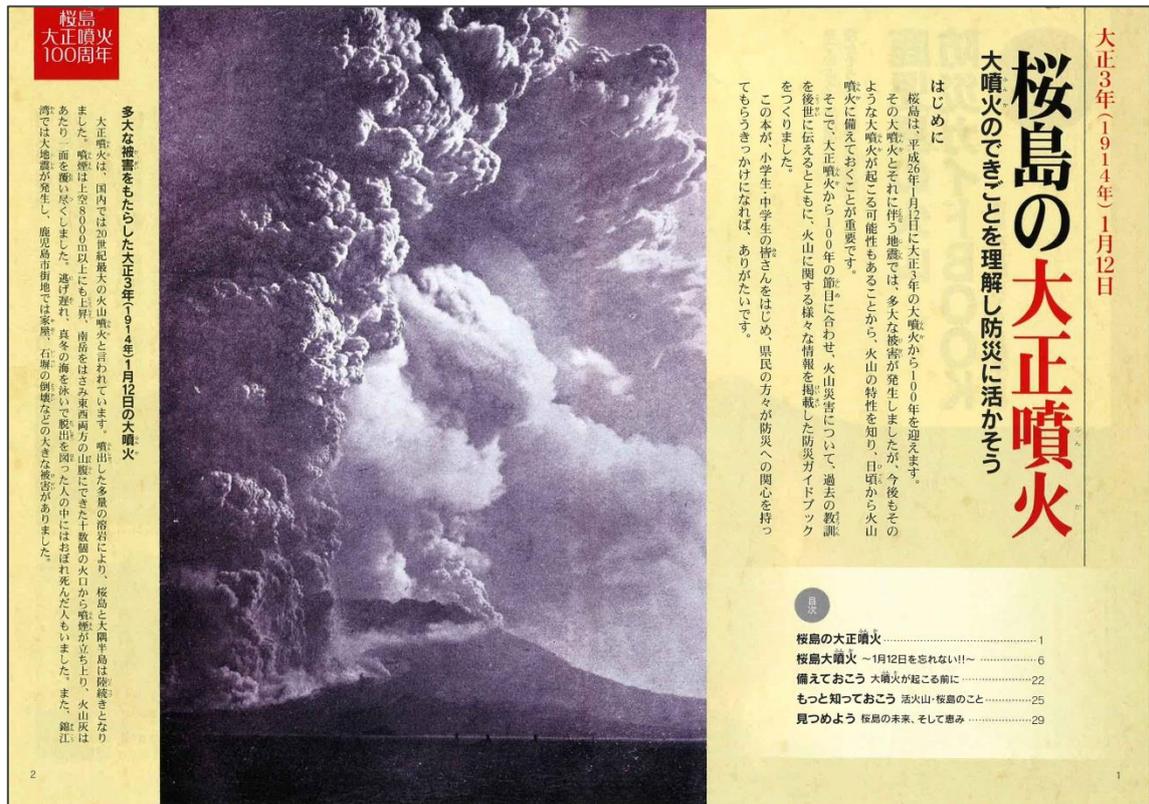
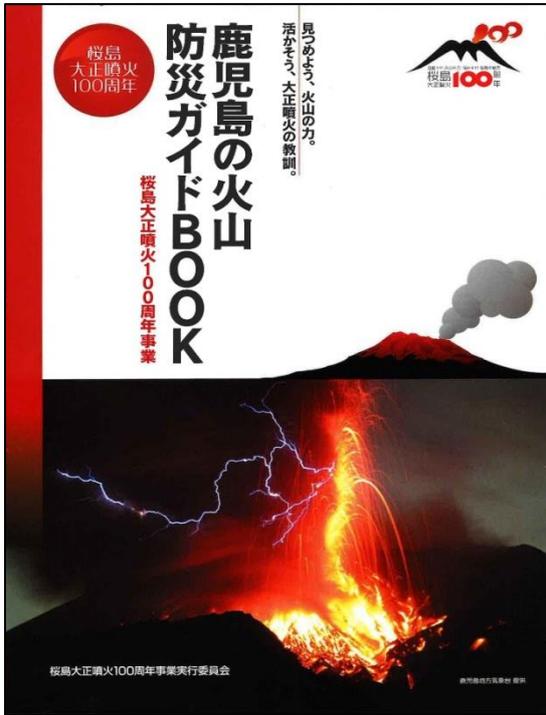
本會創立 大正元年十一月二十日
櫻島爆発記念碑 大正三年一月十二日
原口青年會

[裏面]

創立發起人、青年會長、副會長らの氏名が列挙されている

【鹿児島市内の噴火防災対策：鹿児島市】

- ・平成 26 年 1 月 12 日、大正 3 年（1914 年）の噴火から 100 年を迎えた。
- ・鹿児島市では、大正噴火の教訓を活かし、地域の防災に役立てるため、「桜島大正噴火 100 周年事業」が行われている。



▲桜島大正噴 100 周年事業の「防災ガイドBOOK」

出典：「桜島大正噴火 100 周年記念誌」
桜島大正噴火 100 周年実行委員会
鹿児島県（2014 年発行）

【桜島の噴火防災対策：鹿児島市桜島】

- ・いつ大噴火が起こるともしれない桜島では、大噴火時の応急対策が迅速かつ適切に行われるよう、「大正噴火の日」1月12日に桜島火山爆発総合防災訓練を実施している。
- ・また、退避壕や砂防ダムなどの施設整備も進められており、地域住民の防災意識も高まっている。



▲防災訓練の様子 (画像出典：鹿児島県 HP)



▲噴火時の一時避難場所として、島内に32基の退避壕を設置



▲避難所と監視施設・展示施設を兼ねる「桜島国際火山砂防センター」



▲砂防ダム

黒神防災マップ

～どこへ逃げればいいのか～

【避難3原則】 1 想定にとられるな
2 最善を尽くせ 3 率先避難者たれ

大噴火の歴史から学ぶ桜島

桜島の噴火の歴史

桜島は昔からたくさんさんの噴火を繰り返しています。その中でも、文明噴火、安永噴火、大正噴火は桜島三大噴火といわれています。

文明噴火は、一四七一年に起き、軽石が多く噴出しました。安永噴火は、一七七九年から一七八〇年に起き、海底噴火を伴ったために新島などの小島が誕生しました。大正噴火は、一九一四年に起き、マグニチュード7の地震が発生しました。さらに溶岩流出で、桜島と大隅半島が離れ続けになりました。

桜島の噴火の前兆

大正三年の大噴火前には、次のような前兆現象が起きました。

- ・大きな地震が頻りに起きた。
- ・井戸水が沸騰し出した。
- ・海水が変色し、魚が海面に浮いていた。など

しかし、マグマの供給される量によって前兆現象は異なるといわれています。

桜島の噴火の特徴

噴火の形式は大きく分けてブルカノ式噴火、ストロンボリ式噴火、フリニー式噴火の三つに分類されています。桜島は普段ブルカノ式噴火が多いですが、過去の三大噴火は全て、噴火の様相がさらに大きいフリニー式噴火だったといわれています。

桜島は安山岩質のマグマで、ちょうど中間の粘り気があり、形は富士山の形と似ている成層火山です。

黒神防災新聞

号外

平成26年1月12日発行
黒神中学校生徒会

大正噴火100周年記念
特別発行号

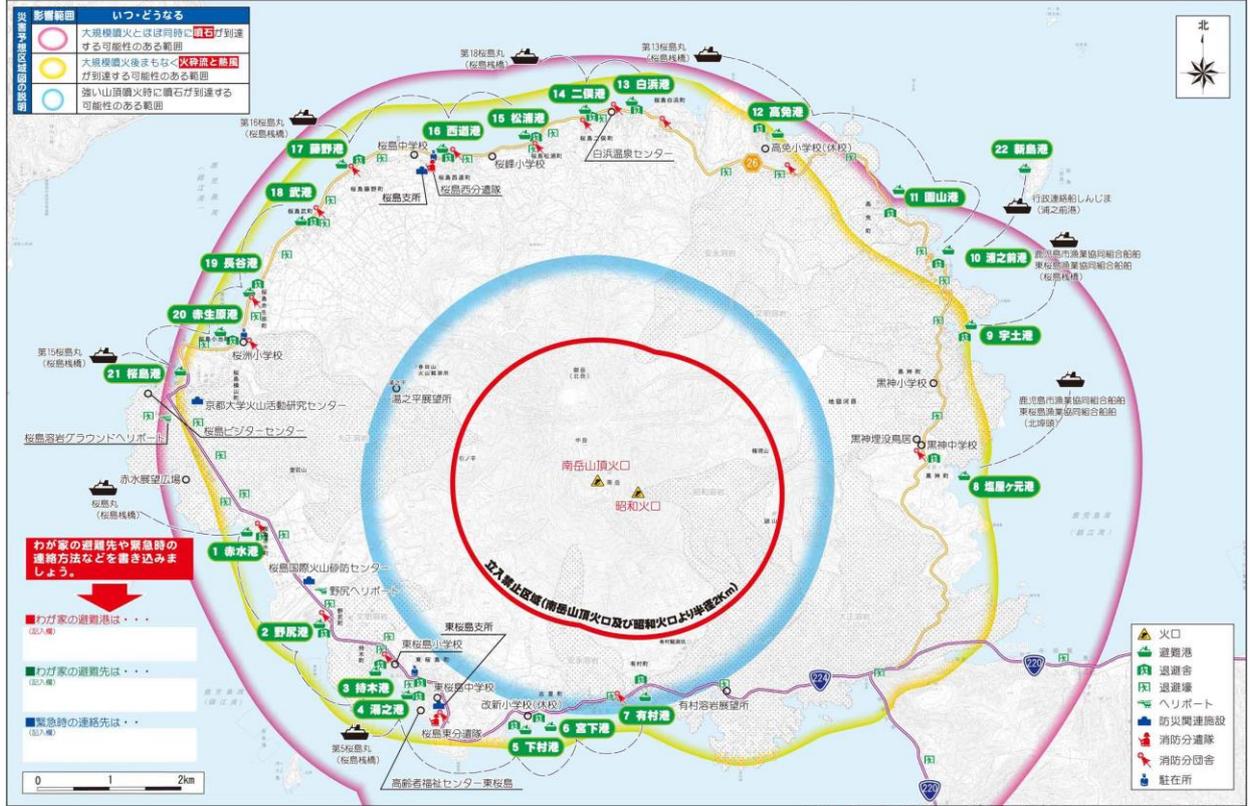
▲黒神中学校生徒会発行の「黒神防災新聞」

■桜島火山ハザードマップ

桜島火山ハザードマップ

マップ作成の目的

この桜島火山ハザードマップは、住民の皆様が桜島の過去の大规模噴火の状況や今後の火山災害の危険性を事前に把握し、日頃の備えや緊急時の速やかな避難に役立てていただくために作成したものです。日頃から目につくところに掲示してください。地域の皆様で緊急時の行動を話し合い、前兆現象や噴火状況に注意しましょう。



前兆現象

- 地震を一日に何度も感じる
 - 地鳴りがする
 - 井戸水、温泉の水位や温度などがいつもと違う
 - 新しい噴気、地温の上昇、地割れ
 - 草木の立ち枯れ、動物の異常行動 など
- 異常現象があれば、通報先に連絡を。

通報先

鹿児島市	桜島支所	099-293-2345
	東桜島支所	099-221-2111
	安心安全課	099-216-1213
消防	桜島西分遣隊	099-245-2099
	桜島東分遣隊	099-221-3119
警察	110番	東桜島駐在所
		099-221-2053
		桜島駐在所
		099-293-2702
		西桜島駐在所
		099-293-2071
気象台	観測予報課	099-250-9916

避難勧告等の情報伝達

噴火警戒レベル	レベル4	レベル5
種類	避難準備情報	避難勧告
内容	大災害が発生することが予想されるので、避難の準備をしてください。	大災害が予想され、危険が近づいているので、避難してください。
避難指示		大災害の発生が確実となり、危険が迫っている。または大災害が発生した時点で、避難しなければなりません。

消防行政無線、消防車、テレビ、ラジオ等でお知らせします。

市からの情報伝達

市民の行動

- 避難の準備をします。非常持ち出し品の確認、家族の居場所の確認、避難先の確認
- 車中泊、入院患者等の災害時要援護者は早めに避難します。
- 戸締まり、火の始末をします。
- 非常持ち出し品、避難カードを持ち、徒歩で避難に集まります。
- 給湯で安全な場所へ避難します。
- 注) 地区を指定した島の避難も想定されますので、市からの情報に注意してください。

避難手順

桜島外避難(全地域) >>>

鹿児島市 消防 消防責任者 誘導担当者 誘導員 住民

避難所 避難先 避難ルート 避難所(桜島内) 避難所(市外)

鹿児島市 消防 消防責任者 誘導担当者 誘導員 住民

避難所 避難先 避難ルート 避難所(桜島内) 避難所(市外)

鹿児島市 消防 消防責任者 誘導担当者 誘導員 住民

避難所 避難先 避難ルート 避難所(桜島内) 避難所(市外)

噴火警戒レベルと防災対応

レベル	火山活動の状況	防災対応
5 (避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生し、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。
4 (避難準備)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される。(可能性が高まっている)	警戒が必要な居住地域での避難の準備、災害時要援護者の避難等が必要。
3 (入山規制)	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす噴火が発生し、あるいは発生すると予想される。	登山禁止や入山規制等。住民は通常の生活。状況に応じて災害時要援護者の避難準備等。
2 (火口周辺規制)	火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生し、あるいは発生すると予想される。	火口周辺への立入規制等。住民は通常の生活。
1 (平常)	火山活動は静穏。火山活動の状況によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる。	状況に応じて火口内への立入規制等。

過去の4大噴火の概要と近年の主な噴火活動

1471年に北東側から溶岩流出、大黒崎(黒神)を形成。1476年に大噴火、南西側から溶岩流出、燃崎(野別)を形成。

南側・北東側の山腹から噴火、溶岩流出。死者148名。北東で海底噴火、新島等を形成。

西側・東側の山腹から噴火。流出溶岩により、大隈半島と陸続きに。火山灰はカムヤマト川半島、小笠原諸島に達した。確率半島で噴火6回の大地震発生。死者、行方不明者50人。

東側(燃崎)から噴火。流出した溶岩は黒神、有村の海岸まで達した。黒神砂浜温泉を形成。死者1名。

昭和30年(1955年) 南岳山頂火口から噴火。昭和35・58・60年には年間400回以上の噴火。昭和47年(1972年) 土台活断より生活に大きな被害。平成10年に昭和火口から58年ぶりに噴火。徐々に活発化。

桜島では、大規模噴火のたびに新たな火口が発生し、溶岩の流下範囲も異なっています。火口は山頂を除き山麓にできる可能性が高いとされています。

事前に、火口の位置を予測することは困難だと考えられています。

大規模な噴火が発生した際には、島内全域が警戒区域になることが予想されますので、大規模噴火が始まる前に島外へ避難することが重要です。

桜島の火山災害現象

噴石 溶岩流 火砕流 土石流

噴火時に岩の破片や軽石が火口から飛び出す。斜面を降り下ります。速度は斜面に多く降り、時には崖の上から大きな石が落ちることもあります。

マグマが火口からあふると、斜面を降り下ります。速度は崖に多く降り、時には崖の上から大きな石が落ちることもあります。

火山灰が風に流されて降り積ります。半徑20km以内では厚さ1m以上になることがあります。

大規模噴火に伴い鹿児島市及び周辺地域で震度6程度の強い地震が起きる可能性があります。

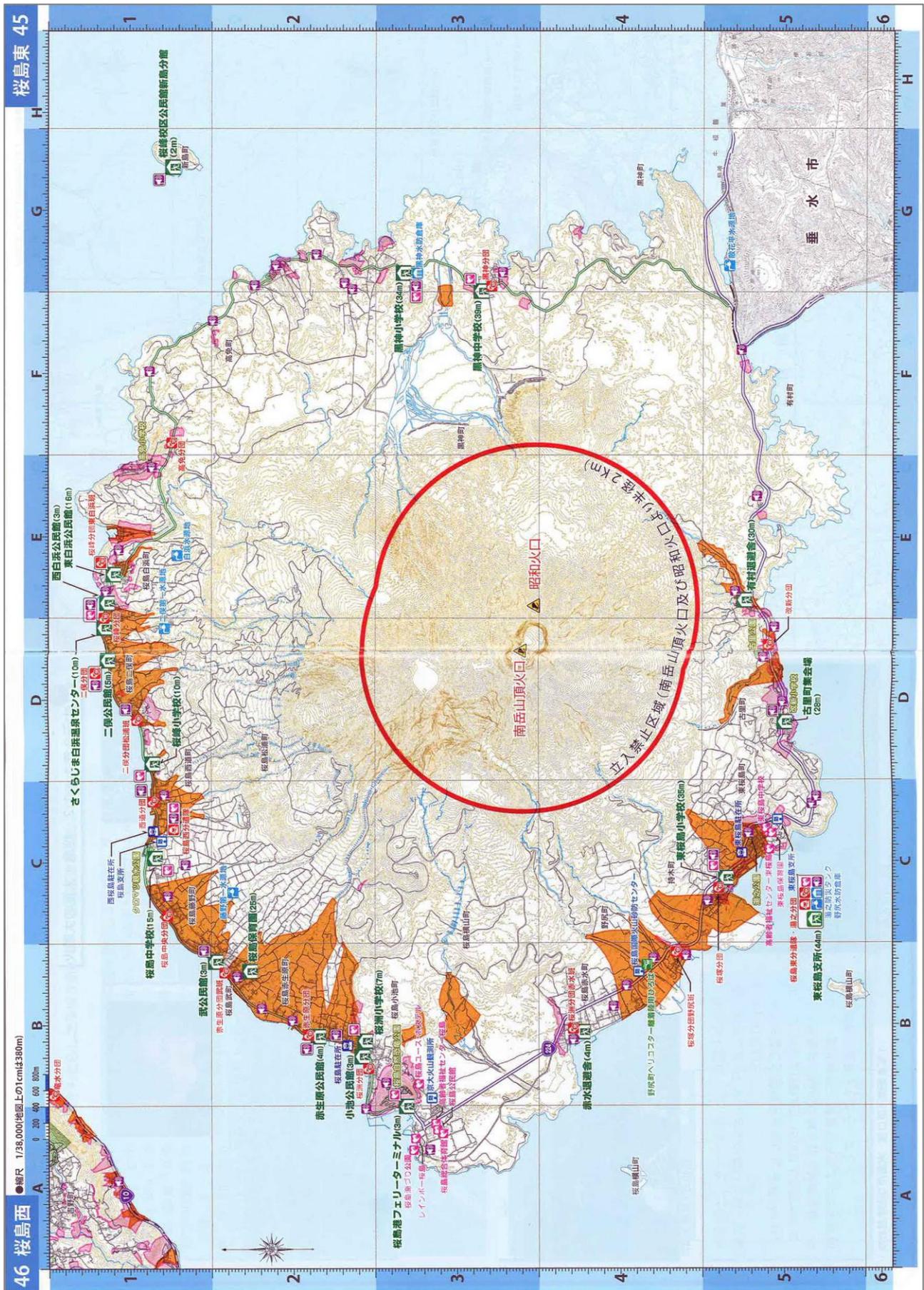
NTT災害用伝言ダイヤル 17171 17171 17171 17171

このマップに関するお問い合わせ先 鹿児島市安心安全課 TEL 099-216-1213

桜島監視カメラ <http://www.gmr.mlit.go.jp/osumi/>

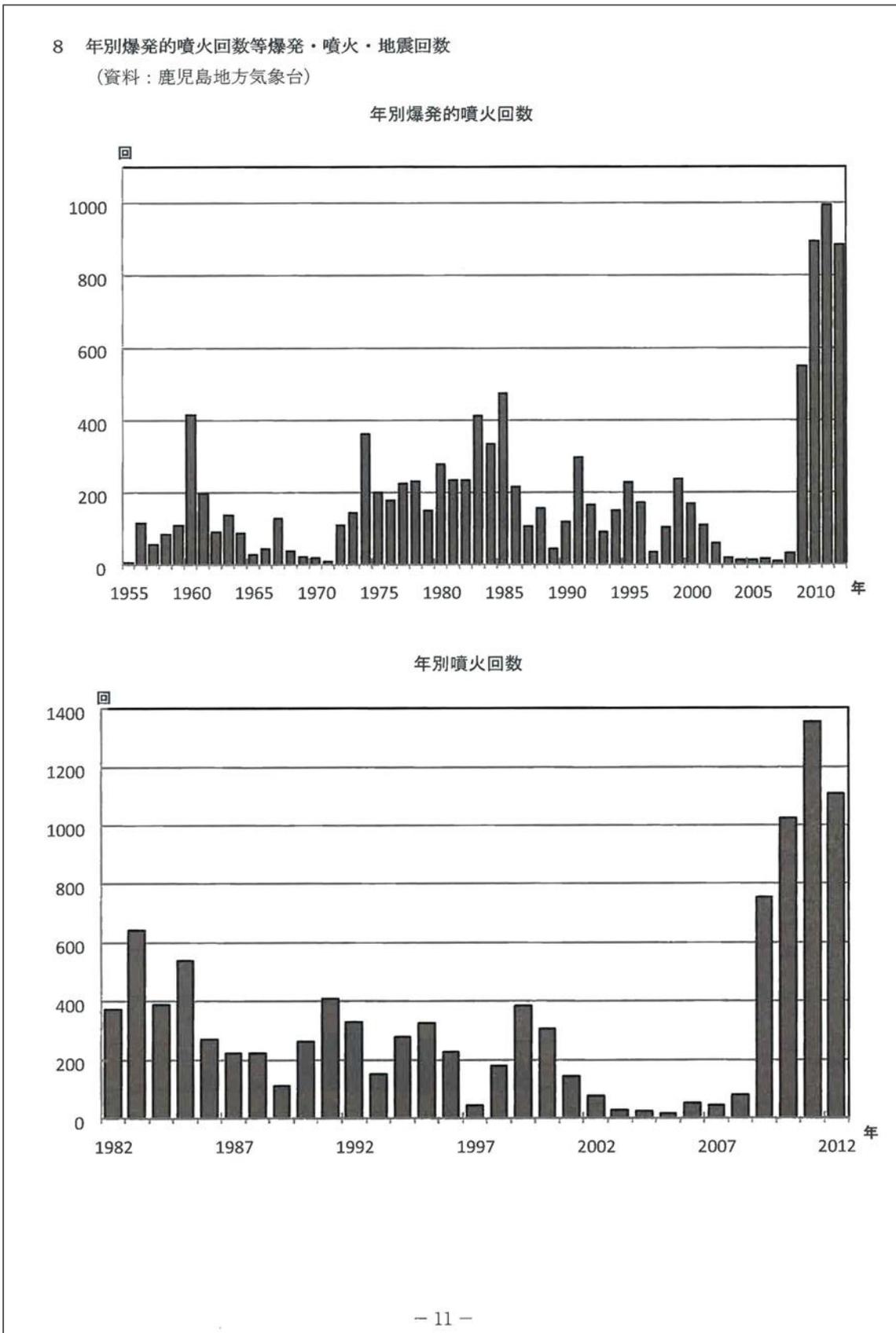
大隅河川国道事務所のホームページより、桜島の監視カメラ映像をご覧いただけます。

■桜島地区の防災ハザードマップ

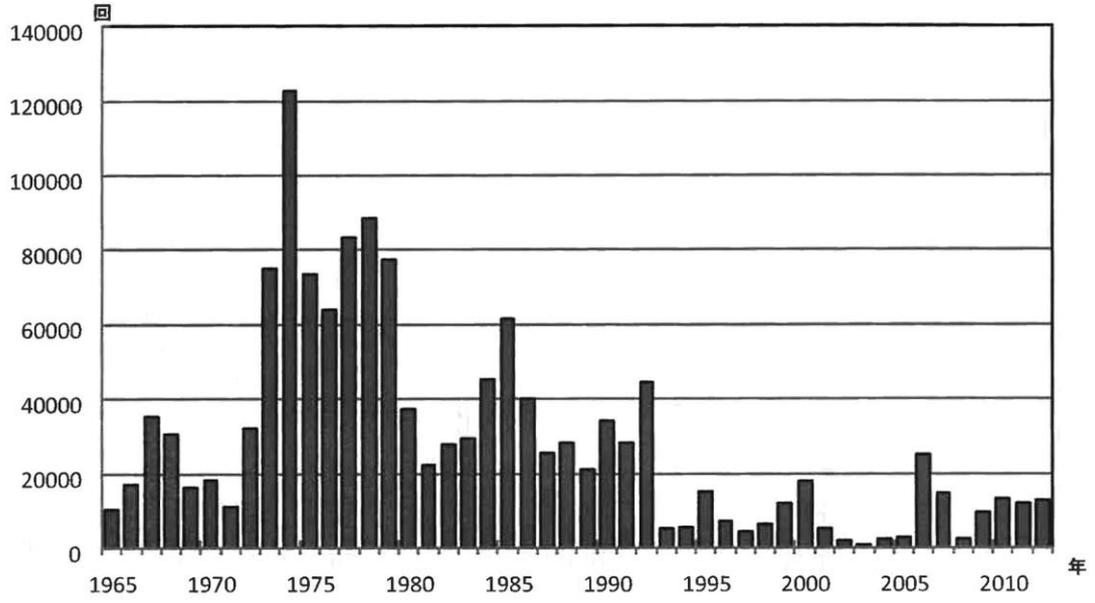


<資料-1>

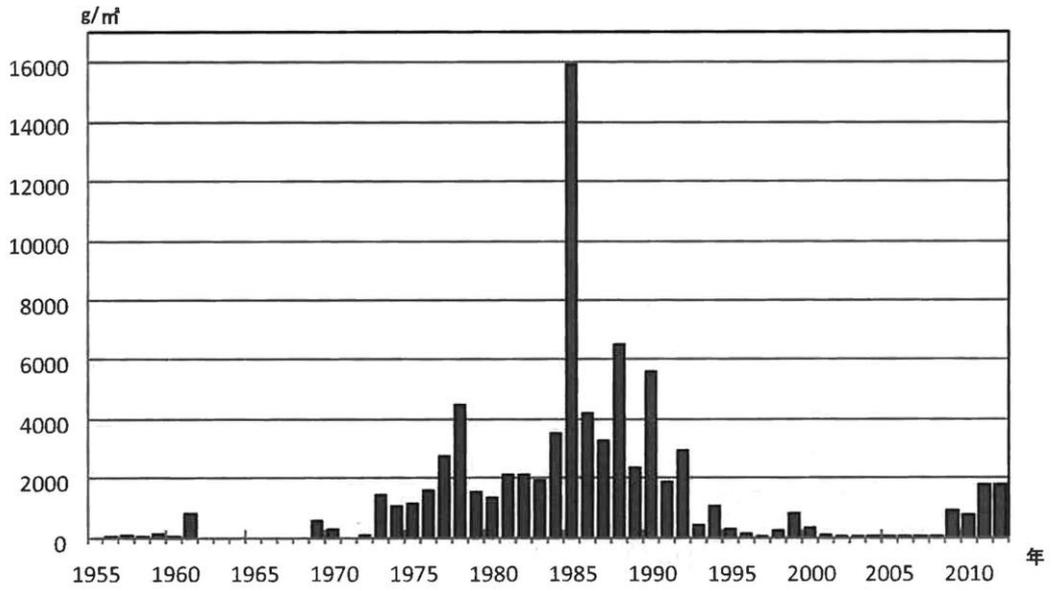
- ・資料名：桜島火山対策要覧
- ・発行者：鹿児島市 平成 25 年 3 月



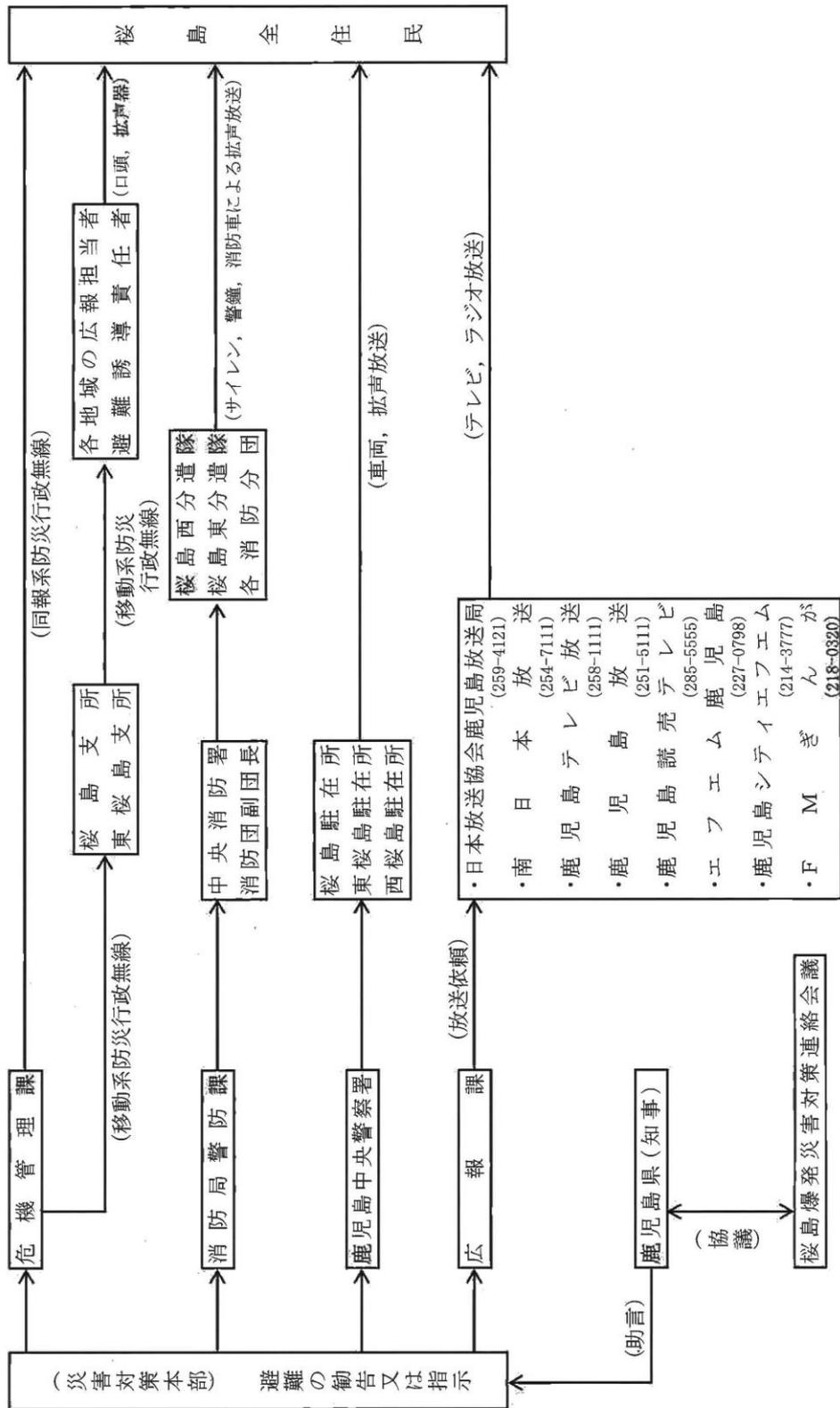
年別地震回数



年別降灰量 (g/m²)



避難の勧告又は指示の伝達系統図



避難施設設置位置図

